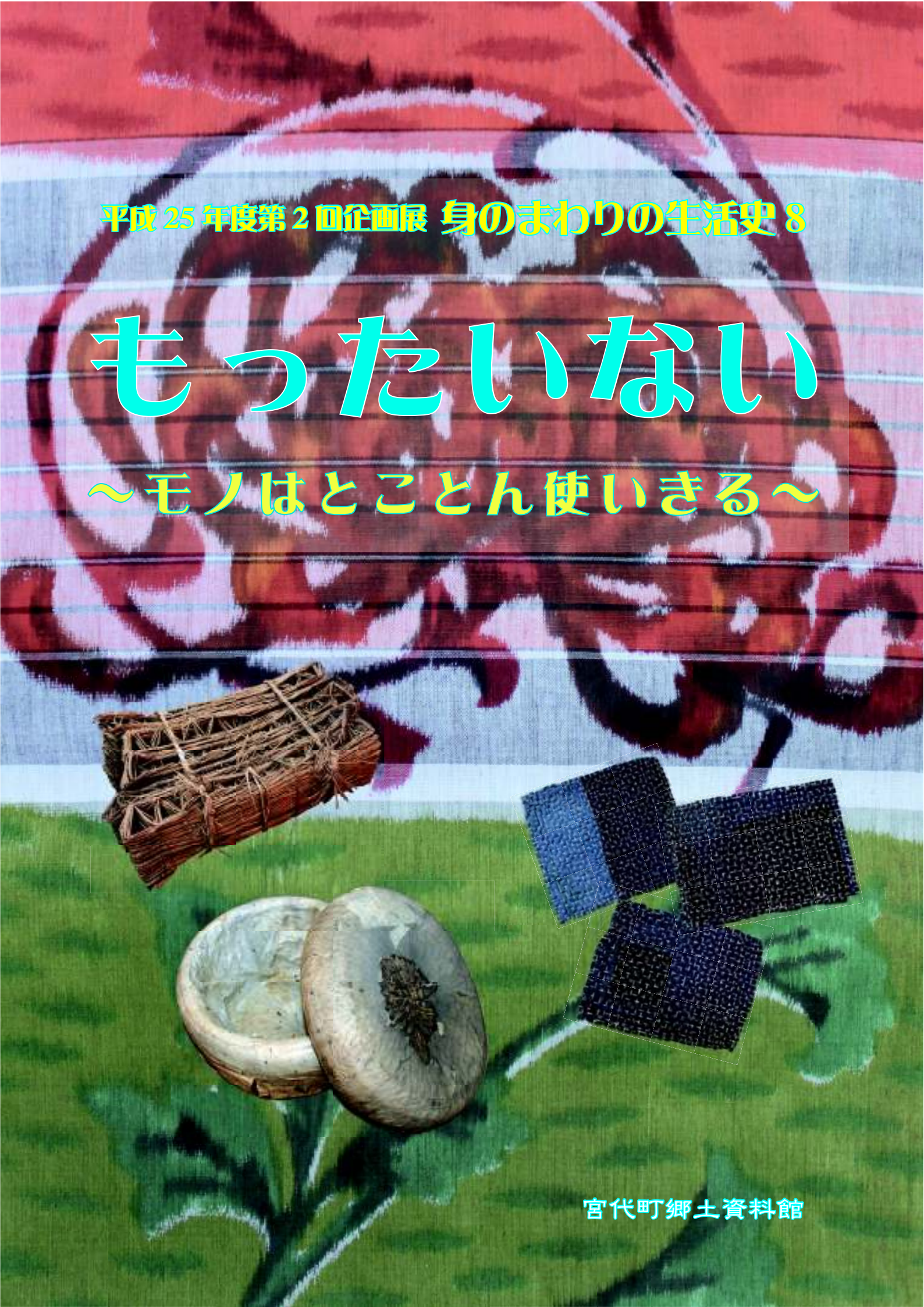
平成25年度第2回企画展 身のまわりの生活史8

もったいない

～モノはとことん使いきる～



宮代町郷土資料館

ごあいさつ

わたしたちの生活の中では「エコ」という言葉がよく使われています。「エコ」とは、エコロジー（ecology）やエコノミー（economy）といった言葉を省略した和製英語であり、「リサイクル（Recycle）・リユース（Reuse）・リデュース（Reduse）(=3R)」などとともに環境問題対策の中から生まれたり使われたりしている言葉です。

現在、わたしたちの暮らしは大変豊かなものであるといえますが、自然環境の悪化や、大量に発生する廃棄物の処理に多くの手間とお金をかけなければならないなどといった課題があり、それらに対応するために地球や生態系などの環境に負荷を与えないような生活や、廃棄物を資源・素材として再利用することなどを「エコ」と表現するようになりました。

この「エコ」な生活の参考になるとして、江戸時代から高度経済成長期以前までの人々のくらしぶりが話題になることがあります。当時の人々の「もったいない」という考え方や、モノを大切したその方法などについて学ぶべき点が多いからでしょう。

今回の企画展では、「身のまわりの生活史 8 もったいない～モノはとことん使い切る～」と題し、稲わらを使った道具や、身につけた衣類を中心に紹介いたします。これらの資料を通して、わたしたちの暮らしや環境に思いを寄せていただければ幸いです。

平成 25 年 7 月
宮代町郷土資料館

～　凡例　～

1. 本書は、平成 25 年 7 月 13 日（土）から 10 月 20 日（日）まで開催される、宮代町郷土資料館　平成 25 年度第 2 回企画展「収蔵品展　身のまわりの生活史 8　もったいない～モノはとことん使い切る～」の展示図録です。
2. 展示期間中の休館日は下記の通りです。
   7 月 16・22・29 日、8 月 5・12・19・26 日、9 月 2・9・17・24・30 日、10 月 1～4・7・15 日
3. 展示の企画及びポスター・図録の執筆、写真撮影、デザイン、編集は、当館学芸員　横内美穂が担当しました。
4. 図録の構成は、展示構成とは異なります。
5. 会場及び本書中の敬称は省略させていただきました。
6. 本企画に展示させていただいた資料は、下記の方々から寄贈・寄託いただいたものです。ここに記し、厚く御礼申上げます。（五十音順・敬称略）
   青木千代子、青木美代子、新井隆夫、伊草進、伊草英雄、折原一、金子和生、小島明良、小島雅郎、戸田義一、冨田利幸、中村忠男、成田良夫、野武きみ子、福田政義、渡辺研二

まえがき・循環型社会と昔のみやしろ

現在のわたしたちの暮らしは、電気・水道・ガスなどのライフラインが整備され、お金を払えば希望するものを選んで購入することができます。モノが壊れたときには、新しく購入してしまったほうが修理するよりも安価になる場合も多いようです。衣類もそのときの流行や好みを重視し、破れなどが無くても処分する傾向が強まり、補修を加えたり他のものに作り直したりするなどして物理的に着られなくなるまで着る、ということはほとんどなくなりました。大変贅沢な時代であると言えます。

その反面、私たちの生活が環境に与えた負荷は大きく、地球温暖化を引き起こしたり、棄てたモノに多額のお金をかけて処理をしたり、その焼却灰の埋立地問題が起きたりなど、さまざまな問題が発生しています。

昭和 30 年代あたりまでは、市販品の種類も数も今ほど多くはなかったため、壊れたら可能な限り直し、本来の目的に使用できなくなった後も、使える部分はさまざまな工夫を凝らして使用しました。モノを粗末に扱うのは惜しいという考え方を示す「もったいない」という言葉には、モノが出来るまでに費やされた時間や労力に対する敬意が含まれているのではないでしょうか。そして、そういった生活スタイルは、環境に負荷をかけることがないばかりか、結果として意図しないながらも、資源が循環する社会となったのです。

藁は大事な資源だった　Resycle

お米は江戸時代から現在にいたるまで、宮代町域における農業の主要な作物であるといえます。お米を収穫すると、その後には多くの稲藁が残ります。

昔の人々はこの稲藁をさまざまな形に変えて活用しました。例えば、縄をない筵を編み、テゴや俵を編んで米や作物などを運搬したり保存したりしました。ゾウリやわらじなど身につけるものを作ったり、オヒツイレやベンケイ、タワシなどのように食生活をささえる道具としても活用しました。

壊れてしまったものも、焚き付けの燃料として使用したり、堆肥にしたりするなどして、決して無駄にはなりませんでした。

稲藁は、工夫次第でさまざまな形に利用できる便利な資源だったのです。

しかし現在は、さまざまな素材の便利な道具や有効な肥料などが市販されているため、収穫後の稲藁を使う機会も非常に少なくなりました。

テゴ

オヒツイレ

着物は形をかえて最後まで使う

Reform

現在はさまざまな素材の衣類が安価に購入することができるため、衣類を手作りしたり修理が不可能になるまで着たりするということも少なくなりました。

しかし、昔は反物を購入して自分で仕立てたり、縫い直したりして着たので、現在の既製服のような気安さはなかったことでしょう。また、農家のほとんどの家では、畑で綿花を育てて綿を収穫したり、自宅で飼う蚕の繭の出荷できなかったものなどから糸を紡ぎ、布を織り、着物を手作りしました。1着の着物を作るために大変な時間と労力を必要としました。そのために、着られなくなった着物も、使える部分は次の着物に転用し、傷んだ部分も何らかの形で使用し、焚き付けとして使用して灰になるまで使われました。その灰ですら、洗濯やあく抜き、畑の肥料などとさまざまな形で使われたので、無駄にするものはなかったのです。

ワラマブシ

炭俵

タワシ

綿花と綿糸

ワラゾウリ

繭と絹糸

ノラジバン

工夫で道具を生み出す　Remix

　壊れてしまった道具類は、本来の目的ではもう使えないものかもしれません。しかし、別の素材を足すなどして工夫を凝らすと、新しい目的を持った道具として生まれ変わらせることができます。

　このコーナーで紹介している道具には、本来の目的で使用されている際に修理を受け、さらに別の目的を持つ道具として加工されたものや、本来の目的での寿命を終えたもの同士を組み合わせて作られた新しい道具などを紹介しています。

女児用　襦袢

染め替えされた着物

オニオロシ

ロウト状民具

雑巾

サンダワラ編みと
サンダワラ

壊れても直して使う　Repair

　大量生産・大量消費の現在は、直すよりも新品を購入した方が安価な場合が多いですが、昔はなんでも貴重だったので、傷んだり壊れたりしてしまっても、まずは直すことを考えました。修理は専門の職人に依頼するほかに、自分でもできる限り行ないました。資料として残されたモノの中には、修理の痕を見ることのできるものがありますが、その出来映えや方法などには思わず感心してしまいそうです。

金継ぎされた湯呑

使用後は購入先に戻す　Return

　昔は、お酒や油などはお店に行って量り売りのものを買い求めました。特にお酒の場合、今ほど「銘柄」はあきらかになっておらず、小売店では数種類のお酒をブレンドして販売していたこともありました。そのため「○○屋のものは辛口で、××屋のものは甘口だ。」などといった話もあったそうです。購入者は店の名が入った徳利に酒を入れてもらい、飲み終わった後、その徳利を店に返しました。回収して再び使用するためです。この手法はお酒の流通経路が変わった現在でも、デポジット制のビール瓶などにその名残が見受けられます。

通い徳利のいろいろ

あとがき・・・未来のみやしろに向けて

昭和30年代の高度成長期を境にして、私たちの生活は大きく変化をしました。その変化は私たちを取り巻く環境にも影響を与え、地球全体の環境変化を引起こす結果となりました。

モノに対して「もったいない」という言葉には、「粗末に扱われて惜しい」という意味と、それに似てはいますが「むやみに費やすのが惜しい」という意味もあります。この「むやみ」とは「前後を考えないさま。理非を分別しないさま。」という意味です。つまり、そのモノに込められた労力や経費、時間などを大切にしなさいという教訓であるといえるでしょう。

昔の人々の生活スタイルをそのまま真似ることは難しくても、そこに込められた考え方や知恵を学ぶことは、未来のみやしろを創造していくことになるのではないでしょうか。

参考文献（順不動）

「宮代町史 民俗編」
宮代町教育委員会／編集　2003年3月31日発行　宮代町

「武家の女性」
山川菊栄／著　1983年4月15日発行　岩波文庫

「江戸に学ぶエコ生活術」
アスビー・ブラウン／著・幾島幸子／訳
2011年3月3日発行　株式会社阪急コミュニケーションズ

「江戸の庶民のかしこい暮らし術」
淡野史良／著　2012年1月5日発行　河出書房株式会社

「大江戸リサイクル事情」
石川英輔／著　1994年8月25日発行　株式会社講談社

「江戸時代はエコ時代」
石川英輔／著　2008年11月14日発行　講談社文庫 株式会社講談社

「埼葛地区文化財担当者会報告書第五集 埼葛の酒文化」2005年3月30日発行　埼葛地区文化財担当者会

～これらの書籍は宮代町立図書館で読むことができます。

展示した資料　（敬称略）

No.	資料名	協力者	No.	資料名	協力者
1	テゴ	福田政義	17	おむつ	青木美代子
2	オヒツイレ	中村忠男	18	雑巾	参考展示
3	ワラマブシ	富田利幸	19	ノラジバン	金子和生
4	炭俵	小島明良	20	男物 長着	参考展示
5	ベンケイ	青木千代子	21	女児用 襦袢	参考展示
6	わらぞうり	福田政義	22	女児用 襦袢	参考展示
7	縄	参考展示	23	地紋入り 色無地	野武きみ子
8	たわし	伊草進	24	ロウト状民具	伊草英雄
9	綿花	参考展示	25	サンダワラ編みとサンダワラ	金子和生
10	もめん糸	参考展示	26	オニオロシ	折原 一
11	繭	参考展示	27	九谷焼染付人物山水図湯呑	小島雅郎
12	絹糸（精錬前）	参考展示	28	通い徳利	金子和生
13	絹糸（精錬後）	参考展示	29	通い徳利	金子和生
14	銘仙 反物	戸田義一	30	通い徳利	金子和生
15	紺地 反物	戸田義一	31	通い徳利	成田良夫
16	張り板	渡辺研二	32	通い徳利	新井隆夫

宮代町郷土資料館